

## 三者面談

校長 武井 正明

先週末、二回目の「五十年目の 俺たちの旅」を観た。

今回はひとりで。妻は天海祐希の「緊取」。あんなに盛り上がっていたのに（自分だけが）、劇場も小さい所に換っていた。上映直前まで、まるで自宅で観ているかのような日常会話の夫婦。どこからか、深い呼吸音が聞こえてくる…。上映中、絶妙なタイミングで「ピピッ」と電子音。…まあいい。そういう客層だと覚悟はしてきた。

これで「俺旅」とも冷静にお別れだ。多分もう、観ることは、ないだろう。

共通テストが終わった。

受験生はきっと結果に一喜一憂だと思う。同情する。私は結果が酷かった。かといって浪人したら、また勉強だけの空虚で、苦しく長い日々が待っている。劇的な点数の上昇も期待できない受験勉強は、もうしたくなかった。

だから一次が終わった後は、ひたすら逃げるように二次試験の勉強をしていたような気がする。だから、全然勉強など楽しくなかった。ただ、やらないわけにはいかなかった。やっていないと、不安で押し潰されそうだった。

私立高入試に並行して、今日明日と吉中では、3年生の進路保護者会が行われる。

三者面談というと、いつも母親が一緒だった。「俺はバカだから」の親父は、最初からそういう話に入ってこなかった。

高3の三者面談。

現実味はなかったものの、東京の有名私大も受験してみたい気持ちも、少しはあった。

高校の仲間には、親に大学受験に行くと言いついて、全部東京で遊んで帰ってきた猛者もいた。（親には「全部落ちた」と言っていたらしい）自分には、そんな度胸はない。ただ、ちょっと「有名私大を受けてみたい」くらい言ってみたっていいじゃないか。

そしたら、当時のベテラン女性の担任の言葉がふるっていた。

「届かない鉄砲は、いくら撃っても届かないのです」どこかで滝の音が聞こえた。

「…のです」って、そういうこと言うか？カネをかけたくない母は、こんな長男だからもし東京がよくなって、地元に戻ってこなかったら一大事だと、すぐ担任に乗じた。

「そうよあんた、夢なんか見ないで一本にしておきなさい!!」

その言葉に反発もできない、学力も意気地もない自分だった。

寧ろ逆に、そうか…『下手な鉄砲』は、距離は届くから当たるんだ。俺のは、そもそも届かない、か…先生もうまいこと言うなあ、と納得していた自分が、振り返れば情けない。当時の私は、それほどまでに、どこまでも「自分」がなかった。

三者面談、あなたの受験だ。しっかり自分の意志を伝えてください。